

報  
告

## シンポジウム「夏の暑さもなんのその」～たのしくできる節電生活～

◆日時 2012年6月26日(火)13:30～16:00 ◆場所 大阪府社会福祉会館 301号室

大阪省エネラベルキャンペーン実行委員会で講演会を行いました。

ひのでやエコライフ研究所の鈴木靖文さんから無理なく効果のある節電のしかたについて、大阪府みどり公社の吉岡牧二郎さんから「うちエコ診断」についての報告を受けました。

### 講演「たのしくできる節電生活」

鈴木靖文さん

節電は工夫すれば楽しく暑さをしのげる。最近の節電対策では、過剰な冷房や照明への反省や、再生可能エネルギーなどに着目している。節電は、50年、100年を見通した対策が必要である。関西電力は供給不安で、この夏15%の節電と大飯原発再稼働を言っているが、CASAでは6月12日に、大飯原発無しでも電力需給は賄えるという緊急提言を出している。

家庭の電力利用はエアコン・冷蔵庫・テレビ・照明が全体の約3分の2で、夏の14時頃はエアコンと冷蔵庫が約4分の3を占める。節電対策は、停電にしないために原発や火力発電に頼ればよいという発想でなく、地球温暖化・環境問題につながる取り組みにしていくべきである。節電の工夫については、日射をよせず、すだれ、植物の緑のカーテンなどで遮り、午前中は窓を閉じ室内温度を保つ。熱中症対策を考慮しながらエアコンと扇風機の併用で節電する。日が陰ってから打ち水も効果がある。家電製品については、白熱電球をLEDに替える。エアコンの冷房温度を2℃上げて2割節電する。冷蔵庫を選ぶなら400ℓ前後のもの

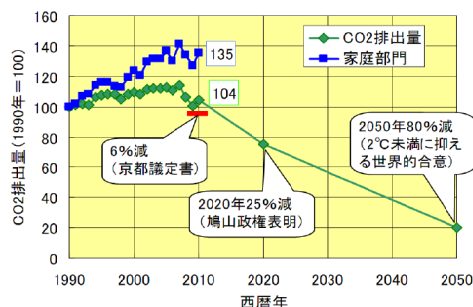


図1 地球温暖化は待ってくれない

が、省エネ性能がよいなどがある。地球温暖化は確実に進んでおり、温暖化を防ぐためには図1にあるように、今後大幅な削減を進めていかなければならない。

### 報告「チャレンジ『うちエコ診断』」

吉岡牧二郎さん

「うちエコ診断」は環境省の事業で、家庭におけるエネルギー消費量をCO<sub>2</sub>排出量に換算して評価し、節電について診断員が家庭ごとに対策を提案する。家庭のCO<sub>2</sub>排出量は、世帯数の増加等により2010年は1990年に比して34.8%増加している。診断は電力・ガス・灯油・ガソリンの使用量データを入力する。それを専用のソフトで全てCO<sub>2</sub>の排出量に変換する。①その排出量を同条件の100件の家庭と比較して何位かのランク付けをする、②削減目標を設定、③排出状況を把握、④対策の提案・選定、⑤太陽光パネルの設置は元が取れるかの試算などもでき、約50分で診断ができる。平成23年度の事業結果では、集団診断が269件、大阪府のみどり公社の窓口診断が24件、個別家庭への訪問診断9件であった。その結果、平成23年度事業によるCO<sub>2</sub>削減効果は診断前に比して20.6%、CO<sub>2</sub>83.4 tの実績があった。

### シンポジウムに参加して

この夏CO<sub>2</sub>削減をと考えている矢先、具体的に取り組みやすい節電対策と「うちエコ診断」について知ることができてとても良かったと思っています。

(報告：古畑 等、CASA ボランティア)